

## 7 今後の検討課題

本実務者検討会では、提言の内容を踏まえて地域の特殊性を考慮しつつ、従来の地域別事業を基本として九十九里地域及び南房総地域の用水供給事業を県営水道に統合する場合の両用水供給事業の効果・課題を検討してきた。

今後は、用水供給事業の一元化など県内全体を視野に入れた検討、また、九十九里地域・南房総地域においても更なる統合・広域化の効果を発揮するための方策を検討する必要があることから、その場合の検討課題について、整理することとした。

### <今後の検討課題>

- ・ 施設整備にあつては、既存施設の有効活用や他事業体の施設の状況を考慮し、効率的な水運用を視野に入れた合理的な更新・再構築について詳細に検討する必要がある。  
※（既存施設の有効活用）  
浄水場の更新時に一時的に生ずる能力低下をカバーするため、他事業体の浄水場での浄水製造余裕能力を活用する。(ただし、新たに連絡管を構築する必要がある。)  
また、浄水製造余裕能力を常時活用することでコストダウンを図ることができる。
- ・ 房総導水路系水源・施設の広域的活用について、県内全体を視野に入れた検討が必要である。
- ・ 施設の再構築を勘案しつつ組織のあり方について検討する必要がある。
- ・ 水質検査業務などの業務集約や一部委託について、他事業体の動向を勘案しつつ検討する必要がある。
- ・ 県営水道の給水・用供区域が拡大することに伴い、非常時における地域間相互のバックアップを可能とする「ネットワーク化」の推進を図るため、施設の状況や管路の新設等を含め検討する必要がある。  
また、県内全体を視野に入れた検討も必要である。
- ・ 九十九里地域及び南房総地域の末端給水事業体の広域化の推進を図る必要がある。